

## 止まり木



## ハーモニーを奏でる



28日に実施した文化発表会。まさに芸術の秋にふさわしい1日になりました。午前中の展示見学では、日頃の学習の成果や部活動での成果を見学することができました。力作が多く、丁寧に仕上がった作品からみんなが、真剣にまた、本気で作品に向き合った様子がよくわかりました。そしてもう一つ感動したことがあります。それは、みんなの見学態度です。多くの学校では、展示見学の際には、「作品には触れない」というのが一般的です。触って壊してしまうことがあるからです。しかし、みんなは作品を大切に扱いながら実際に触れている。触れたうえで、その作品を楽しんでいる姿に校長先生は、感動しました。さらに、作品を見ているときに、バカにしたり、けなしたりといういやな発言がなかったこともうれしく思いました。「かわいい、上手、すごい」などの賞賛の声が多く出ていたことは、**作った人の気持ちを理解できるみんなの力**だと思います。

午後からの合唱コンクールも各クラスの努力が表れていて、本当にあつという間に終わってしまいました。優秀賞に輝いた1年1組、2年3組、3年1組の皆さん、本当におめでとうございました。コンクールなのでどうしても順位が付きますが、本当に僅差の争いだったと思います。コロナ禍の中で実施できなかった合唱コンクール、**ここから新たな伝統の開始**ができたこと確信します。そして、その最初と最後にマリンバのすばらしい演奏を披露してくれた音楽部の皆さん、ありがとうございました。あの演奏のおかげでさらに合唱コンクールの雰囲気盛り上がったと思います。

合唱について開会の時と閉会の時にお話したことを以下に紹介します。合唱とは字の通り、唱を合わせるということで、カラオケボックスなどで自分の好きなように好きな歌を歌うのとはわけが違います。合唱では、自分の持てる力を精一杯出すことは、当然ですが、仲間のいろいろな声や音と合わせることも必要になってきます。最初は、なかなか合いませんが、何度も練習を積み重ねていくと、自分の出す声や音とは、違う仲間の声や音を感じ取れるようになります。そして、その感じ取った仲間の声や音と「合わせよう」とする気持ちがお互いに生まれ、合唱や合奏ができあがっていきます。これを「**ハーモニーを奏でる**」と言います。「ハーモニー」という言葉は、「一致」や「調和」という意味のことです。みんなは、日々の練習を通して、また、本番の緊張感のなかで合唱することを通して、学級の仲間、そして、指導してもらった先生と、心を合わせてきました。その素晴らしいハーモニーを体育館に響かせてください。ということを伝え合唱コンクールは始まりました。

閉会の時の講評ではこんな話をしました。開会の時に「ハーモニーを奏でる」という話をしました。学校生活にも、「ハーモニー」が大切です。みんなの周りにはいろいろな人がいます。**自分のもっているものを大切にしながら、一人一人に違いがあり、よさや個性があることを理解する**。そしてそのよさや個性を高めることが大切です。また、仲間に関心を持ってほしいと思います。仲間のよさをよく見て、違いに気づき、違いを理解し、自分のよさをそこに調和させるのです。そこにハーモニーが生まれます。今、自分は何をすべきかを考えて、みんなが正しく同じ方向に動き始めたとき、横中の素晴らしいハーモニーが生まれると思います。それこそ「横中ハーモニー」です。是非、みんなで素晴らしい、「**横中ハーモニー**」を奏でてほしいと思います。